令和6年度　茨城県立水戸第一高等学校・附属中学校入学式　校長式辞

桜雨に潤う城跡の学び舎に、知道会の稲葉会長、奨学会の石川会長をはじめとするご来賓、保護者の皆様をお迎えして、このように盛大に入学式を挙行できますこと、誠にありがたく、心より御礼申し上げます。

まずは、323 名の新入生の皆さん、入学おめでとう。職員一同、心より歓迎します。皆さんを本校の一員として迎え入れるに当たり、「原点」として、「初心」として、肝に銘じてほしい四字熟語が三つあります。「切問近思」「至誠一貫」「堅忍力行」の三つです。これらは何れも、今から百年以上前の明治 41 年に本校が行った「第一次教育改革」において打ち出された言葉です。

最初に、「切問近思」ですが、どう書くか、わかりますか？「せつ」は、「切る」「大切」の「切」。「もん」は、「問う」「質問」の「問」。なので、「せつもん」とは、切に問う、熱心に問う、ということです。「これは、一体どういうことか？」「なぜ、こうなるのか？」「もっとよい答えはないか？」「もっとよい解き方はないか？」「もっとよい表現はないか？」などといったように、熱心に問いを重ねていくことを「切問」といいます。

よく、天才の代名詞として「一を聞いて十を知る」などといわれます。しかし、そのようなことができる天才は、この中にも少ないでしょう。ただ、「一を聞いて十を知る」ことはできなくても、「一を聞いて十を問う」ことはできます。わからないことや、大事だと思うことについては、自問自答を繰り返したり、いろいろな人に訊いたり、本を通じて先人に尋ねたり、AI とチャットしたりするなど、様々な方法で、様々な角度から、問いを重ねてみてください。

次に、「きんし」とは、「近くに思う」と書きます。ものごとを身近なことに引き寄せて考える、これまで身につけてきた知識や経験と関連づけて考える、他人ごとではなく自分ごととして考える、ということ。

まとめると、「切問近思」とは、「熱心に問いを重ね、身近なことに関連づけて考える」ということです。

明治 41 年に制定された本校の「生徒心得」には、「切問近思ヲ務ムベキコト」との一節があります。これは、学問に臨む際の心得を示したものです。「学問」とは、文字どおり「問いながら学ぶ」もの。問題意識なく、模範解答を丸暗記するような、勉め強いる「勉強」と、「学問」は、この点で全く異なります。本校は、学問を第一とする学校です。予習・復習を含めた授業はもちろん、行事や部活動など様々な場面で、「切問近思」に心がけながら学びを深めていってください。

次に、「至誠一貫」と「堅忍力行」ですが、この二つは本校の校是、本校のモットーであり、校歌でも高らかに歌われています。

まず、「至誠一貫」とは、いつでも、どこでも、誰に対しても、裏表なく誠実に、ということです。「誰に対しても誠実に」と言うところの「誰」の中には、自分自身も入ります。他者に対して誠実に接するだけでなく、自分自身にもウソをつかない、自分の信じた道を貫く、わが道をゆく。このような態度も、「至誠一貫」に含まれます。

続いて、「堅忍力行」の「堅忍」とは、堅く忍ぶ、よく我慢するということ。しかしこれは、ただじっと我慢するということではありません。我慢しているだけでは、状況は改善せず、かえって悪化することも多いでしょう。なので、次に「力行」と続きます。「りょっこう」の「りょく」は、「努力」の「力」。「こう」は「行動」の「行」。「力行」とは、努力して行動に移していく、ということです。

皆さんは、本校の生徒になるまでの間、すごく努力してこられたと思います。しかし、努力の本番は、これからです。何かに「なるまでの努力」も大事ですが、「なってからの努力」はもっと大事です。中学でも高校でも大学でも会社でも、どこかに「入るまでの努力」も大事ですが、「入ってからの努力」はもっと大事です。なってからの努力、入ってからの努力をより一層重視する人こそが、生涯にわたって成長し続けることができるのです。

ただ、この中には、「私はこの学校でがんばってやっていけるだろうか？まわりは優秀そうな人ばかりだ」などと不安に思っている人もいるでしょう。確かに、ここにいるのは、あなたを含め優秀な人ばかりです。だからこそ、皆と一緒に努力することで、より一層自分を高めることができます。朱に交われば、赤くなる。決して気後れすることなく、個性豊かな仲間たちと、大いに切磋琢磨してください。そして、困ったときは、互いに助けあい、支えあってください。もちろん、私たち職員も全員、あなたの味方です。何かあれば、遠慮なく頼ってください。困ったときに上手に他者に頼るのも、「力行」のひとつです。

さて、保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。壇上から見るお子様は、希望と緊張に満ちたとても凛々しい姿をされています。このように立派に成長されたのも、皆様のこれまでの子育ての賜物と存じます。お子様は、水戸一高在学中に成人となります。ご家庭と連携を密にしながら、難問山積するこれからの社会を背負って立てる大人へと、育成・支援してまいりますので、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後に、今日、新入生の皆さんによく見て、確認しておいてほしい物が校内にあります。正門を入った先にある「わが道をゆく」と題した銅像です。これは、日本を代表する彫刻家、能島征二先生の作品です。「わが道をゆく」と名づけられてはいますが、一人ではなく、男女が二人、並んで歩いています。これは、お互いに助けあい、支えあいながら長い長い道のりを歩き切った、「歩く会」のゴールシーンを表したものです。二人は手のひらと、腕と腕とで、2 種類の V サインを作っています。各自が手のひらで作った V サインは、自己の弱い心に打ち克った「内面の勝利」を、二人が腕と腕とで作った V サインは、仲間と共に成し遂げた「連帯の勝利」を表している。そのように私は解釈しています。

ここに集った323名の新入生全員が、二重の V サインを高らかに掲げながら、最後、卒業のゴールを迎えられることを心より願って、式辞といたします。

令和6年4月9日　校長　御厩　祐司